

令和5年度 県立潮来高等学校自己評価表

目指す学校像	人間性豊かな自立した生徒の育成 ～どのような時代であっても一生涯、自立した人生を歩める人間を育成する～		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成をめざす資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会に貢献でき、人間性豊かで自立した人生を歩むことのできる人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	学科や地域の特徴を生かした学習活動により基礎学力の確立と、社会を意識したキャリア教育による生徒の進路希望実現。	
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、毎日の学校生活に「一生懸命・楽しく根気強く」取り組むことができる生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>基礎学力の養成と学習習慣の定着をめざし、丁寧な学習指導に努めているが、成果は十分ではない。学習意欲を向上させるために、授業・課題・考査の取り組み方などについて指導の工夫・改善に努め、自ら学ぶ意欲を喚起する必要がある。</p> <p>進路決定率はほぼ 100%だが、第一志望が叶わない生徒もいる。面談や進路行事、LHR、総合探究の時間を活用するなど学校生活のあらゆる場面で進路意識の高揚を図り、家庭との連携も深めていく。</p> <p>生徒指導に際し、生徒の心情を理解しながら丁寧に指導に当たった結果、概ね落ち着いた状況にある。一部軽率な言動をとる生徒もいるので、さらに生徒観察や声掛けを徹底し、個に応じたきめ細かい指導を心がけ、基本的生活習慣の確立と規範意識の</p>	1 基礎学力の定着	① 「主体的・対話的で深い学び」について研究し、全ての授業で ICT も活用しながら生徒の活動・体験を盛り込んだ指導の実践に努め、インプット型学習からアウトプット型学習への転換を図る。 ② 個の適性・資質・進路希望に応じた学習指導の充実を図り、「個別最適な学び」を支援する。 ③ 授業と課題等を結び付け、自主的・自律的に学ぶ姿勢を育み、家庭学習時間 0 分の生徒をなくす。 ④ アンケートの授業に関する全項目で満足度 85%以上をめざす。	B
	2 社会を意識したキャリア教育の充実	① 適時に適切な進路行事を実施し、勤労観・職業観を育むとともに社会性を養う。 ② 丁寧な個別面談を通して、社会との関わり方を考えさせ、将来の進路設計を促す。 ③ 進路決定率 100%を実現し、就職指導に加え進学指導にも力を注ぎ、4年制大学・短大進学 15名以上の合格をめざす。 ④ キャリア・パスポートの活用により、人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。	B
	3 豊かな人間性の育成	① 家庭との連携を深め、欠席・遅刻・早退を減らし、基本的生活習慣の確立をめざす。 ② 生徒の心情理解を図り、信頼関係を築きながら生徒指導に当たり、特別指導件数を昨年度以下に抑える。 ③ 生徒とのコミュニケーションを大切にし、登校指導や学校行事、委員会活動など学校教育活動全体を通して、「豊かな心」を養い、いじめの早期発見・早期解決に努める。 ④ 部活動加入率 40%超をめざし、各部とも部員を確保し継続的に活動可能な体制づくりを行う。	B

別紙様式2 (高)

<p>向上をめざしていく。</p> <p>学校の活性化のため生徒の自主的活動を求めたい。部活動や委員会活動、学校行事への積極的参加を促し、キャリア・パスポートを活用して生徒個々の人間的成長に繋げる場面を創り出していく。</p> <p>働き方改革については、教員の意識改革や業務の精選を進めていかなければならない。超過勤務時間の削減や業務の縮減で生まれた心身の余裕を生徒への指導の充実に繋げていく。</p>	4 学科や地域の特色を生かした教育	<p>① 学科や地域の特色を踏まえ、実社会・実生活との関わりを重視した体験・探究活動を設定する。</p> <p>② 地域の行事やボランティアなど生徒が積極的に外部と関わる機会を創り出す。</p> <p>③ 検定試験や資格取得、課題研究などへの取り組みを推奨し、生徒が自主的に学ぶ姿勢を引き出す。</p>	A		
	5 信頼される学校づくりの推進	<p>① 潮来市唯一の高校として「地域と共にある学校」を理念とし、地域とのつながりを重視する。</p> <p>② 保護者や地域の方との信頼関係構築をめざし、学校公開や地域の行事を大切にする。</p> <p>③ HPの更新・閲覧回数を昨年度以上に増やし、学校だより（中学生対象）の発行を月1回行う。</p>	B		
	6 働き方改革の推進	<p>② ベテラン・中堅・若手でチームをつくり、スキルを組織的に継承し、業務の効率化を図る。</p> <p>② 月45時間超過の教員がゼロになるよう業務改善・教員の意識改革に取り組む。</p> <p>③ 働き方改革で生み出される心身の余裕を生徒の指導に生かしていく。</p>	B		
	7 授業改善	<p>① 教員同士がスキルを高めあうために、相互の研究授業を積極的に実施。教員間のノウハウの共有や、新たな授業手法の発掘を図る。</p> <p>② 生徒の授業に対しての満足感や充実度をアンケートで測り、肯定的に評価している生徒の割合85%以上を目標設定とする。</p> <p>③ 各学科の特色を活かした授業展開にも力を入れ、生徒が能動的に学べる最適な授業展開に取り組む。</p>	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
国語科	基礎学力の定着を図る。	授業でICTを活用し、基礎・基本をおさえた学習内容の定着を図る。	C	B	わかりやすい授業を展開するため、ICTの活用や協働的な学習の場を設けるように努める。教科会を開き、授業改善の話合いの場を持つようにする。
		個の適性・進路希望に応じた課外・課題添削・家庭学習指導について工夫改善をする。	B		
		日本漢字能力検定を全2回実施する。3級の合格者については全2回の合格率の平均が30%を越えるよう努める。	C		
	読書習慣の定着を図る。	教務部図書館担当と連動し、図書館利用の推進を図る。	B		
社会に通用する国語力が身に付く指導を行う。	場に応じた適切な話し方・聞き方・表現力を養う活動を取り入れる授業を実践する。	B			
	各種研修会に参加し、自己研鑽に努めるとともに、教科内で連携・協力し、情報共有を図る。	B			
地歴公民科	基礎学力の向上を図り社会的事象に対して興味・関心を持たせる。	電子黒板を積極的に活用し、「わかる」授業の充実を図る。	B	B	授業内でICT機器を活用し、地図や副教材を提示する機会を増やし、「わかる」授業を展開していきたい。
		地図や副教材などの資料を通して、社会的事象に興味・関心を持てる授業を実践する。	B		
		各種研修会に参加して情報を収集し、生徒に還元していくことに努める。	B		
数学科	基礎基本の定着を図る。	基本的な計算の問題演習を授業時間に実施する。定期考査で出題し、定着の度合を測る。	A	B	・ICTを活用した効率的な授業展開を実践しているが、より有効活用するための研修が必要である。 ・進学課外や補習の機会を増やし、個に応じた指導を丁寧に行っていく。
		適宜、課題を出すことで家庭学習を促す。	B		
		定期考査不振者に対して補講を実施し、学力の底上げをしていく。	B		
	「わかる授業」への改善に努める。	ICTを活用した授業展開について、研修を深める。	C		
		数学科各教員が幅広く生徒の指導に関わっていくように協力しながら進めていく。	B		
		提出物等で生徒の理解を測り、授業に反映していく。	B		
		各種研修会に参加し自己研鑽をするとともに、教科内で情報共有を図る。	C		
目的に合わせた個別指導の充実を図る。	進学・就職に数学を必要とする生徒に対応した個別指導を随時行う。	A			
	希望者対象の課外を実施し、資質・能力をさらに伸ばしていく。	B			

別紙様式 2 (高)

理科	生徒の実態を踏まえた指導を行い、基礎学力の定着を図る。	生徒がつまづくポイントを把握し、復習を十分に行うことで、「分かる授業」を行う。	B	B	ICT 活用を意識しながら授業することで生徒の学力の定着や振り返りの機会増加を図ることが出来た。次年度は実験・観察の機会確保や教科内での話し合いを行い授業改善を図っていきたい。
		ノートやレポート等を提出する機会を設定し、授業に対する取り組みを適切に評価する。	B		
		小テストやアンケート、振り返りを随時実施し、学力の定着状況を正確に確認する。	B		
	自然や科学に対する興味・関心を育む。	実験・演習実験だけでなく ICT を適切に活用し、生徒が自発的に自然科学の現象に関心を持てるような指導を行う。	B		
	実験・観察に主体的に取り組む態度を育てる。	各実験の目的を理解しながら主体的な活動が行えるようなきめ細かい指導を行う。	B		
		教科内での授業見学や TT を積極的に導入して充実した授業体制の推進に努める。	C		
保健体育科	生徒が主体的に学び、活動する態度を育成する。	時事的内容や視聴覚教材 (ICT) を取り入れ、わかりやすい授業を展開する。	C	B	生徒が主体的に考えて行動できるよう支援を続けていきたい。ICT を活用した授業を展開できるよう研鑽を積んでいきたい。
		生徒一人一人の課題設定を明確にし、解決のための行動が取れるよう支援する。	C		
	集団で行動することを通して規範意識や帰属意識を育てる。	体育の授業だけでなく、体育的行事で集団行動を行うことにより、集団の中での自己の役割を理解させ、クラスや学校の一員であることを意識させる。	B		
芸術科	生徒の実態を踏まえた魅力ある授業を通して、芸術を愛好する心情の育成に努める。	生徒の興味・関心にそった幅広い題材や実態に合わせた教材を取り上げることで、基礎的な知識や技能の定着を図る。	B	B	ICT を活用した授業改善及び、音楽と美術の教科横断的な鑑賞の機会をより設定できるようにしたい。
		芸術を通じ豊かな人間性や社会性を育み、生涯を通して芸術を愛好する心情や生きる力を育成する。	C		
		発表・展示の機会を積極的に設け、音楽・美術の横断的な鑑賞会を行うことで主体的・創造的な態度や表現する喜びを養う。	B		
英語科	生徒が主体的に取り組める課題設定を工夫する。	ペアワークやグループワークなどによる「聞くこと・話すこと [やりとり・発表]」の活動を多く取り入れ、表現する力を育む。	B	B	課題設定および教授内容の工夫を継続的におこなう。生徒の実態をふまえ、基礎学力の定着に努める。
	生徒の実態をふまえ、基礎基本の充実に努める。	基礎基本となる英単語の小テストを定期的実施し、語彙力の定着を図る。	B		
商業科	基礎学力の向上に努めるとともに資格取得を奨励する	課外授業等を実施するとともに、会計・情報処理分野において TT で授業を行うことにより、学力向上を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT 活用の授業実践に取り組み、生徒の基礎・基本の知識・技術の定着に努めた。 計画的に課外を実施し、生徒の資格取得に繋げる。 志願者増へ向けた取り組みの推進を図る。
	地域との連携を深める。	学校説明会での魅力ある授業や地域との連携を通して PR をはかり、志願者を増やす取り組みをする。	C		
情報科	情報モラルやセキュリティの知識を身に付ける。	ネットワークセキュリティや情報モラルについての知識を身に付けさせる。	B	B	生徒にとって馴染みのない分野において、理解に困難を示す様子が見られた。工夫を重ねた授業を展開し、知識技術の定着に努める。
	プログラムのアルゴリズムやソフトウェアの知識と技術の定着に努める。	プログラムやソフトウェアの基礎的・基本的な情報活用能力を身に付けさせる。	B		
家庭科	基本的知識・技術の定着を図る。	ICT を効果的に活用し、基本的知識と技術の定着を図る。	C	C	人数が少ないながらも協力して指導にあたったが、人手不足が否めない場面が多々あった。外部講師の講義や校外での活動を通して、生徒が主体的に探究活動を行う支援を更に進めていきたい。ICT 活用の授業改善を更に進めたい。
		科内外で研修を行い、授業改善に取り組む。	C		
	選択コースの授業充実と資格取得に努める。	少人数指導によるきめ細かな指導を行い、各種検定の合格率 100% を目指す。	C		
		課題研究等の授業を通して、主体的に探究活動を行い、成果を発表する。	B		
	家庭クラブの活性化に努める。	調理講習会や花いっぱい運動、研究活動などを行い活動を活性化させる。	B		
	ホームプロジェクトを実施し、生徒自ら課題を発見し、解決する経験を積む。	C			

別紙様式2 (高)

教務部	生徒の学習意欲及び基礎学力向上を図る。	年2回（6月と11月）の校内での授業公開を積極的に推進するとともに、研修会を実施し教員の指導力向上に努める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、教科と連携し、生徒の学習意欲の向上に努める。 ・ICTの活用と協働的な学習の実現に向けた授業改善。 ・継続的な蔵書の整理および生徒が利用しやすい図書館の環境整備。 ・適切かつ充実した広報活動の実施。
		ICT機器を有効に活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実践に努める。	B		
		基礎学力を向上させ進路実現を果たすために、適切に課題等を与え家庭学習を勧める。	B		
	学習指導体制の確立を図る。	成績不振者に対しては、学年・教科と連携しながら、長期休業中や考査前に補習を行う。	A		
		授業を大切にす意識を高める。学年と連携し、欠課時数等で指導を受ける生徒を少なくする。	B		
	図書館利用者数の増加を図り、活性化に努める。	新入生への図書オリエンテーションを実施し、授業での図書館利用の支援を行う。	B		
		静かで明るい読書環境を整備したり、生徒の興味関心をひくテーマによる展示を行ったりすることで、利用者の増加をはかる。	B		
		購入図書希望アンケートを実施し、図書館の充実を図る。	B		
	広報活動を充実させ、本校への志願者数を増やす。	学校説明会や学校公開を充実させ、中学生や保護者、中学校の先生方に本校の魅力を伝える。	B		
学校新聞を年間6回以上発行、地域や関係中学校に配布し、学校の魅力を伝える。		B			
ホームページを効果的に活用、積極的な情報発信を行う。		B			
進路指導部	進路意識・職業観・勤労観の向上を図る。	適時に適切な進路行事を実施し、職業観・勤労観を向上させる（進路ガイダンス、進路講話、進路別バス見学会、職業人講話、進路希望調査、進路セミナー）。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な進路行事を通じて、生徒の職業観や勤労観、進路意識の向上を図る。 ・公開模擬試験、看護模試、課外授業を通じて基礎学力の定着を行い、進路実現力の向上を図る。 ・個々に応じた面接指導や進路相談を継続し、進路実現の達成を図る。
		キャリア教育を実践し職業観・勤労観を向上させ地域の人材を育成する。	インターンシップ、看護体験、職場見学、企業訪問、オープンキャンパス、自衛隊駐屯地見学、地域ボランティア活動に参加し、職業観・勤労観の向上を図る。		
	基礎学力の向上と自己理解をめざす。	課外授業、公開模擬試験、適性検査、一般常識テスト、看護模試、秘書検定などを実施し、進路実現能力の向上を図る。	B		
		個に応じた面接指導、進路相談を実施し、進路目標を明確にする。	B		
	学年・保護者との連携を図る。	就職進学説明会、各学年進路指導部員間の連携、保護者面談時の進路相談を実施する。	B		
		進路行事をHPへ掲載する。PTA会報へ進路状況を掲載する。	C		
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	毎朝の「朝のあいさつ運動」を通して、あいさつの励行や身だしなみの指導を行う。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の「朝のあいさつ運動」を継続して、挨拶の励行や基本的な生活習慣の確立を図る。 ・いじめ未然防止のため日常の生徒観察を十分に行い、生徒の変化に早期に対応する。 ・交通安全に対する意識を高めさせ、ルール・マナーの遵守や事故防止を図る。
		定期的な生徒指導集会を実施し、頭髪や服装の正常化等規範意識の向上を図る。	C		
		全教員が普段からの「声かけ」を行い、生徒との信頼関係を築く。	B		
	生命・身体の安全確保を基本とした生活指導を実践する。	登下校時の交通指導を実施し、交通事故防止を図る。	C		
		携帯・スマホ利用のルールとマナー遵守を促し、トラブルの未然防止に努める。	C		
		月毎に被害調査を実施し、生徒間トラブルの早期発見、対応を図る。	B		
	外部機関との連携を強化する。	関係機関と協力し、地域の祭礼等の巡視を行い問題行動の未然防止に努める。	B		
地域からの苦情や連絡に真摯に対応し、速やかに行動する。		C			
学警連や県東地区の生徒指導部と情報を共有して、生徒指導を実践する。	C				
特別活動部	部活動の活性化を図る。	定期的な顧問会議の開催と各部顧問間での情報共有・共通理解を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響がまだ懸念されたが、実施形態を工夫して球技大会や文化祭を実施することができた。 ・生徒会を中心に生徒自身が自ら考え、行動する力をさらに発揮する機会を増やしていきたい。
		生徒会活動との連携を図り、部活動を活性化させるための活動を促進する。	A		
	ボランティア活動を奨励する。	多くの生徒がボランティア活動に参加できるように、各種ボランティアの案内・掲示と呼びかけを実施する。	B		
	生徒会役員の自発的活動を促進する。	生徒会による校外・校内での積極的な活動を促す。また各種委員会もできる限り活動をしてもらえるように環境を整備する。	A		
キャリア・パスポートを活用する。	生徒が各々、特別活動の履歴を整理し、自己を省みることで人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。	B			

別紙様式2 (高)

渉外部	保護者と教職員が連携し、信頼される学校づくりに努める。	PTA 役員会等を通して連携を密にし、教育活動への理解と協力を得る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校PTAの事業については、計画に従って実施することができた。また、多数の役員の方に参加いただいた。 ・高P連関係事業や地元地域の行事なども実施されるようになり、本校からも参加できた。 ・次年度も状況に応じて、活動を進めていきたい。
		保護者面談以外にも、学校公開やPTA総会など、保護者がより参加しやすい計画を立てる。	B		
	地域や関係機関との連携を図る。	PTA 広報誌やHPを活用して、学校の教育活動の様子を地域に積極的に公開する。	B		
		地域の関係機関と連携してマナーアップキャンペーンを実施する。	A		
保健安全部	生徒の健康管理や感染予防の意識を高める。	「保健だより」を毎月発行する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策については新たな情報や指針に基づいて柔軟に対応していきたい。 ・教職員対象の救急救命講習を実施することができた。次年度以降も継続的に実施していきたい。 ・調査データを活用して生徒の情報の共有を図り、生徒支援に活用していきたい。 ・関係機関と連携して適切な防災訓練を実施すると共に生徒の防災に対する意識向上を図りたい。
		ポスターを掲示したり資料を配付したりすることで、思春期特有の疾病や季節毎の感染症について理解させ、自身の健康について考える機会を増やす。	B		
		健康診断の受診率 100%を目指す。	B		
	防災・安全教育の徹底を図る。	関係機関と連携した防災訓練を計画する。	C		
		救急救命講習を計画し、緊急時に対応できる体制を整える。	B		
	環境美化の意識高揚に努める。	HR をとおしてゴミの削減と分別の徹底を呼びかけるとともに、清掃用具の定期的な交換を実施する。	B		
	問題生徒の早期発見と支援に努める。	問題を抱える生徒と面談し、問題解決の支援をする。	B		
		保健安全部会を定期的に実施し、問題生徒の面談計画と支援策を協議する。	B		
		校内の支援体制を整備し、保護者・中学校・外部関係機関との連携を図る。	C		
		心理テストを実施し、支援に活用する。	B		
教育相談研修の実施と教師の資質向上を図る。	「相談室だより」を定期的に発行して、相談室の活動を周知徹底する。	B			
スクールカウンセラーの有効な活用をする。	スクールカウンセラーの専門性を活かした生徒支援と職員への生徒支援方策の助言を活かす。	A			
第一学年	基礎・基本学力の定着を図り、主体的に学習活動を行う態度を育てる。	日々の授業を大切に、予習・復習を心掛け、主体的に学習に取り組む態度を養う。	B	B	<p>学校生活を通して生徒の個性を理解し、指導にあたった。学校行事を通して生徒の良さを再確認した。生徒の持つ個性を伸ばし、規範意識の向上なども継続的に意識して指導していきたい。</p> <p>全体として、それぞれの目標達成には、まだまだ課題が多く、より具体的な方策やアプローチが必要だと感じた。学年一丸となって連携を密に取り、生徒・保護者対応を真摯に取り組んでいきたい。</p>
		課外授業や各種テストを奨励・実施し、基礎・基本学力の定着・向上を図る。	B		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	「あいさつ運動」を通して、自分から進んであいさつができる習慣を身に付ける。	A		
		時間厳守・生活リズムの確立等を柱に高校生らしい基本的な生活習慣を確立する。	B		
	積極的な資格取得・部活動参加を促す。	各種資格・検定を奨励・実施し、合格に向けての補講や課外も随時行う。	B		
		特別活動部・各部顧問とも協力し、部活動への積極的加入を推進する。	B		
	豊かな人間性と社会性を身に付けさせる。	学校行事やホームルーム活動に積極的に参加させ、コミュニケーション能力を高め、豊かな人間性を育む。	A		
		「総合的な探究の時間」・「ポート授業」等を通して郷土愛を深め、社会性・協調性を育む。	B		
保護者・地域との連絡を密に取り、学校の信頼関係を構築する。	保護者との連絡・連携をスピーディーかつ密に行うことで、諸活動・問題の早期対応・解決に対応する。	A			
	学校諸活動の情報を保護者・地域に発信し、また、地域のボランティア活動に参加するなどして、本校の教育活動への理解・協力を求める。	B			
第二学年	基本的な生活習慣を確立し規範意識の向上を図る。	頭髪・服装の指導を継続的に行うとともに、挨拶を奨励し、社会的規範意識の向上を図る。	B	B	<p>学習に臨む姿勢も含め、基本的な生活習慣が身に着いてきた生徒も多いが、遅刻や欠席が減らない生徒、問題行動が改善されない生徒もいる。学年としての組織的な対応を強化しながら、</p>
		遅刻・欠席を減らし、計画的に行動する姿勢を身に付けさせる。	B		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	落ち着いて主体的に授業に取り組む姿勢を養うとともに、家庭学習を奨励する。	B		
		定期考査や授業の課題に計画的に取り組む姿勢を身に付けさせる。	B		
		進路行事や課外授業、実力テストを実施し、自分の将来を考える機会を設ける。	A		
社会性・協調性および	ホームルーム活動や学校行事に積極的に参加させ、社会性と協調性の向上を図る。	B			

別紙様式2 (高)

	個々の能力の伸長を目指す。	修学旅行や文化祭・球技大会などの集団活動を通して、個々の能力の伸長を目指す。	B		学習や集団行動、社会的意識も含め、進路達成が叶うよう、高校生活最後の年の指導を充実させていきたい。ほとんどの保護者が協力的なことに助けられている。
	保護者との連携を密にし、信頼関係を構築する。	生徒に関わる、学校生活において発生する諸問題について、早期かつ迅速に学年全体で対応する。 保護者との連絡・連携を密にし、本校の教育活動への理解と協力を求めるとともに、必要な場面では専門機関に迅速な協力を依頼する。	C B		
第三学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	頭髮・服装の指導を継続的に行い、規範意識の向上と社会人としてのマナーを身につけさせる。	B	B	基本的生活習慣や規範意識、基礎学力の向上などはおおむね良好であったが。遅刻指導については昨年度までと同じく複数回遅刻してしまう生徒がおり、指導の工夫が必要であると感じた。 進路関係の指導については、ICTを用いるなど工夫しながら実施した。外部業者を呼んでのガイダンス等も実施し、担任の先生方を中心に学年団で細やかな指導を行った。 保護者との連携・対応も丁寧に行い、信頼関係を構築し、協力を得られた。
		あいさつなどコミュニケーションを活性化し、互いを認め合い、協力しあえる関係作りを促す。	A		
		登校時間・授業時間を厳守させるとともに、時間を大切に使う・うまく使うことの大切さを伝え、遅刻指導を強化する。	B		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	授業を大切にし、教えあい活動や発表の場を準備し、生徒が主体的に取り組む姿勢を養う。	B		
		自分で考え、その考えを共有しあう姿勢やプレゼンテーション力のさらなる強化に努める。	B		
		各種資格・検定の案内を随時行い、積極的に取得させる。	B		
	進路指導の充実、全生徒の進路希望を実現させる。	課外授業や一般常識テストを実施して、基礎学力のさらなる定着を図る。	A		
		進路指導部と連携し、進路説明会、模擬面接、志望理由書や履歴書指導等を数多く実施する。	A		
		オープンキャンパス、体験学習、会社見学に積極的に参加させる。	A		
	保護者との連携を図り信頼関係を構築する。	進路相談の個別指導を適宜実施し、各生徒の進路実現を促す。必要に応じて保護者を交えて行う。	A		
保護者との連絡・連携を密にし、問題に対しては早期に学年でチームとして対応する。		A			
	保護者との連絡・連携を密にし、問題に対しては早期に学年でチームとして対応する。 確実な情報伝達のための工夫をするとともに、保護者の要望や意見に対しては丁寧に対応し、学校教育への協力を求める。また、必要に応じて家庭訪問を行う。	B			

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できてない